



日本河川・流域再生ネットワーク <http://www.a-rr.net/jp/>  <https://www.facebook.com/JapanRRN>

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。(Since 2006)

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ JRRN 会員寄稿記事	4
➤ 「リバフロサポートセンター」からのお知らせ	6

## JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

### 「桜のある水辺風景 2023」Instagram にて募集中です

前号でお知らせしたとおり、今年も「桜のある水辺風景」の企画を遂行中です。皆様からの「桜のある水辺風景」写真を募集しております。昨年に引き続き5月8日（月）まで Instagram にて受け付けます。

応募方法は次の3ステップです。

#### 【応募方法】

#### Step 1 : JRRN 公式アカウントをフォロー

Instagram で「jrrn01」で検索して JRRN のアカウントをフォローしてください。

下記 QR コードからアクセスできます。

JRRN 公式アカウントをフォロー



#### Step 3 : 「#桜のある水辺風景 2023」へ投稿

タイトル、撮影時期、コメントを自由にご記入いただき、企画名「#桜のある水辺風景 2023」をつけて投稿してください。それ以外のハッシュタグも自由に設定 OK !

ハッシュタグ「#桜のある水辺風景 2023」をつけて投稿



#### Step 2 : 水辺の桜風景を撮影

あなたが見つけた、素敵なお水辺の桜風景をスマートフォン、デジタルカメラで撮影。

(過去に撮影した写真でも投稿いただけます！)。



事務局において最優秀賞 1 点、優秀賞複数点を選定し、JRRN ホームページで公表するとともに、各種刊行物・ウェブサイト等の広報媒体によりおよそ 900 の JRRN 会員をはじめ、リバーフロント研究所など関係機関の協力も得て、全国に積極的に広報します。

昨年の最優秀賞、優勝賞の情報はコチラからご覧いただけます。

※「桜のある水辺風景 2022」最優秀 & 優秀賞案内

<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/1305.html>

(JRRN 事務局・後藤千佳子)



JRRN 事務局からのお知らせ (2) JRRN Activity Report

**小さな自然再生普及促進プロジェクト – 昨年度に3回開催した「小さな自然再生」現地研修会開催報告書公開 及び 今年度の「小さな自然再生」現地研修会開催予告**

2022年度(令和4年度)に開催しました第15回～第17回「小さな自然再生」現地研修会の開催報告書を公開致しました。

この3冊の開催報告書は、現地研修会の参加者とともに学び、楽しんだ内容の一部を、当日の写真や座学講義での配布資料、また関連資料とともに皆様にご紹介するものです。

各現地研修会は、「小さな自然再生」研究会及びJRRN事務局を運営する(公財)リバーフロント研究所に加え、次の関係団体の方々との協働・協力により開催することができました。関係された皆様には厚く御礼申し上げます。

回	分類	団体名
15	共催	一般社団法人神山つなぐ公社
	徳島 協力	神山町、滋賀県立大学環境科学部・瀧研究室
16	共催	宮津天橋高等学校フィールド探究部
	京都 協力	京都府丹後土木事務所、宮津市教育委員会
17	共催	特定非営利活動法人水辺基盤協会
	茨城 協力	国土交通省関東地方整備局霞ヶ浦河川事務所



※『第16回小さな自然再生現地研修会 in 京都府宮津市・大手川』開催報告書のダウンロードはこちらから  
<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/333>



※『第17回小さな自然再生現地研修会 in 茨城県土浦市・霞ヶ浦』開催報告書のダウンロードはこちらから  
<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/340>



※『第15回小さな自然再生現地研修会 in 徳島県神山町・鮎喰川』開催報告書のダウンロードはこちらから  
<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/325>

なお、2023年度(令和5年度)も、公益財団法人河川財団の河川基金の助成を頂き、「小さな自然再生」現地研修会を全国で3回開催させていただきます。開催場所の公募等につきましては、改めて皆様にご案内申し上げます。

(JRRN 事務局・和田彰)

4月



櫛田川と立梅井堰（筆者撮影）



## あの日のあの川 リレー日記 ～第67話～



あの日のあの川  
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？ 幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

### 第67話主人公 藪和史

（筑波大学大学院 システム情報学研究科 構造エネルギー工学専攻 白川（直）研究室『川と人』ゼミ）

（□川ガール・■川系男子）

（出身地を流れる川：三重県：阪内川、櫛田川）

### 「故郷の記憶」

いつのこと？： 幼少期～現在

どこの川？： 櫛田川

こんにちは。熊谷さんからバトンを受け取りました筑波大学白川研究室の藪和史です。

今回のリレー日記では私の故郷三重県松阪市を流れる櫛田川にまつわる思い出を書きたいと思います。

櫛田川は三重県松阪市飯高町と奈良県吉野郡東吉野村の県境に位置する高尾山にその水源を発し、伊勢湾へと注ぐ一級河川です。

このリレー日記を受け取り、自分の中にある川の記憶を辿った時、真っ先に思い浮かんだのがこの櫛田川でした。

私の祖父母は飯高町に住んでおり、幼少期の頃から週末になると祖父母の住む飯高町へと母親と兄弟と共に通っていました。祖父母の家は山々に囲まれる飯高町の山裾に位置しており、祖父母の家へはその山々から流れ出す櫛田川に沿って進みます。車窓から見える櫛田川は岩肌が露出してゴツゴツしているのが印象的で、流水に削られて水深はかなり深くなっています。

小学生の私にとってこの櫛田川はもっぱらレクリエーションの場としてその役割を果たしていました。

祖父母の家のすぐ隣にはコンクリートで護岸されているものの、沢が流れています。その沢に沿って山を登っていくと砂防ダムと、その横に祠が備えられています。私はその砂防ダムのすぐ下流に堆積した土砂とそこにできた水たまり？（水は絶えず流れている）でよく遊びました。そこにはたくさんの沢カニが生活しており、石をひっくり返して追いかけて回したり、祖父母の家から持ってきた食べ物を置いて食べているところを観察したことを覚えています。また魚を探したり、石を動かして小さな河道を作ったり水を堰き止めたり。マムシが隅に鎮座しているのを見つけた時には経験したことのない恐怖を感じました。この日記を書きながら、受験期には砂防ダムの上に敷物と机を置いて勉強していたことも思い出しました。祖父母が山を登って蚊取り線香やおやつを持ってきてくれたことがとても懐かしいです。

また夏になると櫛田川の本流にも遊びに行きました。小学生の時には櫛田川のほりにあるキャンプ場でキャンプを行い、とても大切な思い出になりました。

体が大きくなると流れの緩やかなところで泳ぐようにもなりました。それはそれはとても気持ち良いものです。しかし潜った時には底は深すぎて全く見えず、少し流れの速いところへ行くとものすごいエネルギーを感じます。両親や祖父母からの心配の声も相まって川の恐ろしさ、死というものをものすごく身近に感じる経験でもありました。その岩肌のゴツゴツとした風貌も相まって子供ながらに現実感を伴った畏怖の念を抱きました。

幼少期の自分にとってはレクリエーションの場でしかなかった川ですが、大学に入って治水や利水といった川の持つ人々の生死に関わる側面を知り、学問の対象として川に興味を持つようになりました。川には本当にたくさんの要素が関わっており、どれを中心に据えるか悩み深いところです。それでも自分のスピードで、楽しみながらやっていたらと思います。

(次は玉置千紘さんにバトンを託します)

## 「リバフロサポートセンター」からのお知らせ(1) RiverFront Support Center

※「リバフロサポートセンター」は、公益財団法人リバーフロント研究所が強みとするテーマの情報、技術、研究成果、また川づくりの楽しさややりがい等を社会に発信し、水辺とまちのパートナーとして各地域の担い手を支援します。JRRN はリバフロサポートセンターと二人三脚で川づくり・まちづくり・流域づくりの推進に取り組んでおります。

## 「第31回全国川サミット in 守山・琵琶湖 (2023年10月)」開催予告

「かわまちづくりサポート」事務局 (担当：阿部充)

今年の10月開催予定の第31回全国川サミット in 守山・琵琶湖について、開催予告のお知らせです。

参加申し込み方法等の詳細については、今後追加情報にてご案内してまいります。

## 1. 日程：

2023年10月20日(金)・21日(土)・22日(日)

## 2. 内容：

【1日目】負担金必要(行政関係者のみ)

日時：10月20日(金) 10:00～20:00(予定)

会場：琵琶湖マリオットホテル

内容：①現地視察

②全国川サミット連絡協議会総会

③国土交通省講演等

④首長サミット

⑤歓迎交流会

【2日目】負担金なし(参加自由)

日時：10月21日(土) 9:00～12:30(予定)

会場：守山市民ホール 大ホール

内容：①全国川サミット開会式

②記念講演・事例発表等

③サミット宣言

【3日目】負担金なし(参加自由)

日時：10月22日(日) 10:00～16:30(予定)

会場：調整中

内容：淡海の川づくりフォーラム

## 3. 連絡先：

守山市環境政策課

担当：田中・武田・前田

電話：077-584-4691

メール：kankyoseisaku@city.moriyama.lg.jp

※「第31回全国川サミット in 守山」予告動画はこちらから

<https://m.youtube.com/watch?v=xFiscDFH2GU>

## ■全国川サミットとは

「全国川サミット」は、一級河川と同じ名称の自治体同士の交流を通して川の環境、流域の生活や歴史への理解を深め、その普及啓発を行うことを目的として、平成4年度から開催されています。平成18年度からは流域内の自治体も参加し活動が広がっています。毎回、地域独自の工夫を凝らしたテーマ設定のもとで、首長による意見交換、生徒たちの環境学習の成果発表、行政職員や有識者の基調講演など、充実したプログラム内容となっています。

平成29年度から常設事務局が置かれることとなり、リバーフロント研究所がその任を務めています。

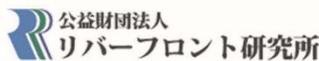
## リバフロサポートセンターをご活用下さい

リバフロサポートセンター事務局

2022年7月のリバフロサポートセンター立ち上げから約8か月が経過し、この間に約40件のお問合せやサポート要請を頂きました。今年度も4テーマを中心に水辺とまちのパートナーと

して各地域の担い手を支援して参りますので、お気軽にサポートセンターをご活用ください。

→ <https://www.rfc.or.jp/supportcenter.html>



2022年7月  
公益財団法人リバーフロント研究所

### 安全で豊かな河川と水辺、にぎわいのある地域づくりの実践をサポート

リバフロサポートセンターは、リバーフロント研究所が強みとするテーマの情報、技術、研究成果、また川づくりの楽しさややりがい等を社会に発信し、水辺とまちのパートナーとして各地域の担い手を支援します。

#### □ 設立の背景と目的：

公益財団法人リバーフロント研究所は、河川・流域の治水・自然環境・生態系、水辺のにぎわい、さらには健全な水循環系の視点から、これからの社会のあり方や価値観を提案し、その実現に向けた課題を見出し、施策提言・研究・技術開発・普及啓発などの活動を通じてその解決を図るとともに、現場実践、多様な主体との連携・協働を通じてスタンダードをつくり社会実装させることに日々挑戦しています。

当研究所が強みとするテーマに関連する情報、研究成果、技術等を社会に還元するとともに、行政職員・市民団体・技術者・研究者など全国の川づくり・地域づくり・流域づくりの担い手を支援する窓口として、新たに「リバフロサポートセンター」を2022年7月22日（金）に設立しました。

同サポートセンターは、これまで当研究所が事務局を務めている「多自然川づくりサポートセンター」や「日本河川・流域再生ネットワーク」の機能を引き継ぐとともに、「かわまちづくり」や「河川環境管理シート」などの支援体制を強化することから着手し、治水と環境とにぎわいが共存する川づくり・まちづくり・流域づくりの更なる推進に貢献することを目的とします。

#### □ サポートセンターの概要：

- ・所在地：東京都中央区新川1丁目17番24号 NMF茅場町ビル7階（公益財団法人リバーフロント研究所内）
- ・センター長：中村圭吾（副センター長：都築隆禎）
- ・4つの機能：川づくり・まちづくり・流域づくりに関わる次の機能を担います。
  - ① 技術開発・普及……………新技術の開発及びそれらの普及啓発
  - ② 情報提供……………ナレッジ集約及び情報発信
  - ③ 技術指導・地域連携……………研修会開催、講師派遣を通じた実務者等の人材育成
  - ④ 国際協力……………日本の経験の海外普及及び海外知見の日本への還元

#### □ サポートセンターの体制：

リバフロサポートセンターは、テーマ別に4つのサポート窓口で構成され、今後新たなテーマの窓口創設も目指してまいります。また、どの窓口相談すべきかわからないテーマについてもお気軽にお問合せください。



#### □ リバフロサポートセンターへのお問合せ：

サポートに関わるお問合せは、お気軽にメールにてご連絡をお願いします。email: [supportcenter@rfc.or.jp](mailto:supportcenter@rfc.or.jp)  
また、サポートセンター及び各サポート窓口の概要は以下のウェブサイトをご覧ください。

※リバフロサポートセンター：<http://www.rfc.or.jp/supportcenter.html>

## JRRN 会員募集中 JRRN membership

## ■ JRRN の登録資格 (団体・個人)

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

## ■ 会員の特典

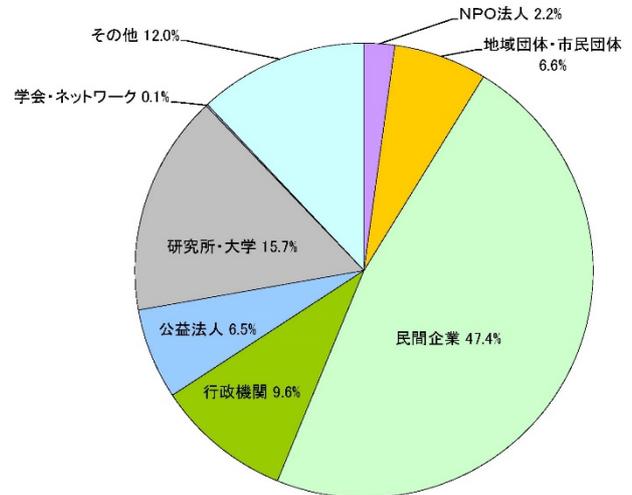
会員登録をされた方々へ様々な「会員特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

## ■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2023年3月31日時点の個人会員の所属構成

(個人会員数：837名、団体会員数：79団体)

※2-3月の新規入会数：個人会員2、団体会員9

## JRRN 会員特典一覧表 (団体会員・個人会員)

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

## 日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局

〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 NMF 茅場町ビル7階 (公財) リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3861 Fax:03-3523-0640 E-mail: [info@a-rr.net](mailto:info@a-rr.net)

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

